

【奨励賞】

「北方領土問題について」

根室市立歯舞小中学校
2年 中村 そら

北方領土がロシアに占領されてから、もうすぐ七十三年が経とうとしています。日露首脳会談も行われましたが、未だに北方領土問題は解決されていません。

私の住んでいる所は北方領土に近く、そのたの、学校で北方領土についての学習があります。元島民の方のお話をきいたり、資料を読んだりしてたくさんのことを学びました。ロシアに島が占領されるまで、日本の人々は昆布がよくとれる貝殻島で昆布漁をしていたこと、占領後、民間協定を結び昆布漁を復活させたが、ロシアにたくさんのお金を払わなければならないことがわかりました。また、お墓参りにさえも、自由にできていないそうです。私は「日本の領土なのにおかしい、早く返してくれればいいのに」とあまり深く考えていませんでした。

しかし、今年六月に、学校に北方領土に住んでいる私たちの同年代のロシアの子供たちが来たことで、改めて考えました。

「もし、島を返還し、島を出ていくことになったら彼らはどんな気持ちになるだろう」と。小学六年生の頃に、自分の住み慣れた所を追い出され、辛い思いをした私のひいおばあちゃんと彼らの姿が重なりました。すると、「人を追い出さなくても、自由に行き来や漁ができるようになればいいのではないか。」という考えにかわりました。今の島民たちのことを考えると全て返還は難しいと思うからです。

そのために、北方領土について知らない人にも関心を持ってもらいたいです。そして、ロシアとの交流に参加する人がふえれば、両国にとって最善の策が出るのではないかと思います。私たちには、人々に関心をもってもらえるように、北方領土問題について語りついでいく役目があると思うので、もっとひいおばあちゃんのお話をきいて、知識を得て、広めていきたいです。あと、島を返還してもらうということは、今の島民も辛い思いをすることを忘れずに、話し合っていきたいです。

いつか自由に行き来ができるようになったら、ひいおばあちゃんといっしょに、北方領土に行きたいです。